

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	滋賀大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シガダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	プロジェクト科目「プロジェクト型インターンシップ2017年夏」
	学部・研究科等名	経済学部
	担当教職員名・役職	柴田雅美 特任准教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	4
	受入企業等名	千成亭、まっせ、彦根市社会福祉協議会、夢京橋商店街協同組合
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	彦根を中心とした企業や団体の活動に密着し、受入企業からの課題やニーズに基づくるプロジェクトを企業と連携しながら実施した。経営・団体の理念・哲学に触れ、さらに事業の一端を担うという責任感を学生に求めた。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		1年次～4年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		経済学部においてプロジェクト科目とは、「学部専門共通科目」のなかの「実践・体験科目」区分として位置付けられている。この区分の科目は、専門科目として経済学部のすべての学科の学生が履修することができ、修得した単位は卒業要件に算入される。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)		

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	29年度は、社会人マナーの基礎的な指導、プロジェクトの進め方や企業・団体との関わり方の指導、目標設定を行った。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習として成果報告会を開催しました。受入企業を招聘し、フィードバックシートを使いながら、企業や学生間の評価を行った。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターン期間中、毎週一回以上の頻度で、学生の取り組み状況確認、企業・団体との連携状況などについて、企業側へのヒアリングと学生へのヒアリングし指導した。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生にはエントリーシートを用いて事前の意欲や目標を設定し、事後は、活動についてフィードバックを行い、今後につなげる整理をしました。また、社会人基礎力チェックシートを用いて事前・事後の自己診断を実施し、目標設定と達成状況の確認も行います。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	15日間
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習1日、事後学習1日、実習13日(8月11日～9月28日)で15日以上になるように設計している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業からの課題やニーズに沿ったプロジェクトを企業と連携しながら実施した。経営の理念・哲学に触れ、さらに企業・団体の事業の一端を担うという責任感を学生に求めた。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済
問い合わせ先	大学等名	滋賀大学
	担当部署名	地域連携教育推進室
	担当者役職名	特任准教授
	担当者氏名	柴田 雅美
	電話番号	0749-27-1348
	メールアドレス	fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp